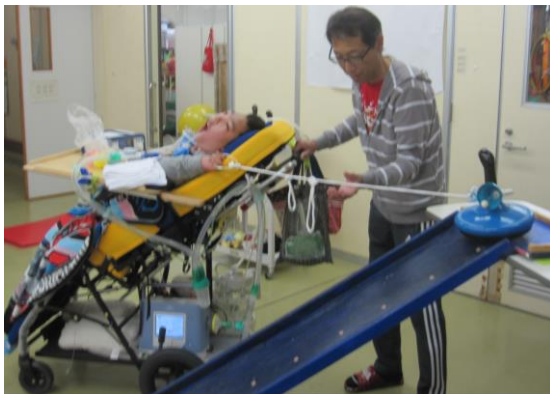


重度・重複障害のある児童生徒の主体的な動きを引き出す支援
～考え・工夫する教育の実践～

目標

何ができるようになり、
どんな力が付くのか

- ・複数の感覚を活用する力
- ・外界を把握する力



何を学ぶのか

- ・握ったり持ったりする感覚
 - ・重力や引っ張り、引っ張られる感覚
 - ・前庭感覚の向上
- ※ 前庭感覚とは、重力や回転、頭の傾き、加速度を感じる感覚です。

内容

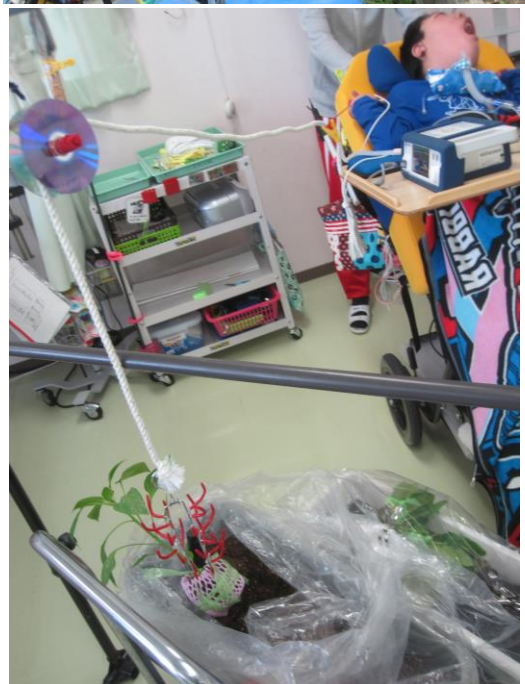
学習者起点の 能動的な深い学び

教師も共に
考え工夫し、学び合う授業

方法

どのように学ぶのか

- ・ゲームや作物の収穫、調理実習、自販機で
- ・前庭感覚への働きかけ



教師も児童生徒も共に「考え工夫し、学び合う授業」

児童の反応があまりに短く、弱く、またたくうちに消え去って見過ごしてしまうことが多いのは残念ですが、その反応に気がつくようになると、自分の意思がはっきりしていて、外界に対して反応している児童だということが次第にわかります。そうなってくると、働きかけのタイミングがつかめるようになり、児童が毎日少しずつ確実に成長していることがわかってきます。